

航空写真を使って太陽光発電システムの見積書を作成するソフト「ソーラーマスター」を導入する企業が増えている。今年2月の発売から半年間で訪販会社を中心に50社以上が契約した。

10月から、太陽光発電と同時にオール電化を導入した場合の、光

の提供を開始した。

「ソーラーマスター」は、インターネットに接続できるノートパソコンを使用し、航空写真を使って屋根の面積を測定することで、パネルの最大設置枚数や発電量の目安、光熱費削減効果などを算出するシステム。

国内外メーカー14社

半年で50社超が導入

熱費削減効果をシミュレーションできるようにした「ソーラーマスター Ver2.0」



オール電化にも対応

に対応しており、パネルを選んでから発電能力キョウあたりの設置価格を設定すれば、補助金を差し引いた設置費用と、費用の回収期間を示すグラフなどが表示される(写真)。

オール電化を導入した場合、毎月のガス代や電気代、電灯契約の種類などを入力すると、10年間の光熱費収支が算出される。

システムの利用料は

登録料2万円と、2ライセンスの使用で1カ月あたり2万5000円。年間一括払いなら28万円。原則的に年間契約で、1ライセンス追加するごとに月々1万円かかる。従来版の契約者は、自動的に最新版にアップデートされる。

さまざまな営業手法で活用することが可能だ。テレアポの場合、あらかじめ見積書を作成しておけば、初回訪問時に商談をスムーズに進められる。催事販売なら、来場者にその場で概算価格や予想発電量を提示できる。

オール電化を販売した顧客に対して、ソーラーマスターで作成した太陽光発電の見積書をダイレクトメールで送るといった活用方法もある。